

# 「今に生きる言葉」

## 要点と期末テスト対策ポイントまとめ

### 「今に生きる言葉」要点とポイント

#### 「今に生きる言葉」の要点

日本で日常的に使う言葉には、中国の古典に由来（ゆらい）するものがたくさんある。歴史的な事実や、古くから伝えられる例え話、エピソードなど「故事（こじ）」を背景に持っているものがあり、そうやって故事から生まれた言葉を「故事成語（こじせいご）」という。

つまり、昔の中国での出来事などをもとに作った言葉が「故事成語」で、その言葉が今現在でも使われているから、「今でも生きている言葉」ということだね。

#### 「今に生きる言葉」のテスト対策ポイント

- ・ 故事成語とはどういう意味か答えられるようにする
- ・ どんな故事成語があるのか、それぞれの意味を理解する
- ・ 「矛盾（おじゅん）」の故事に登場する書き下し文の言い回しの意味を理解する
- ・ 漢文の読み方のルールを理解する
- ・ 「今に生きる言葉」本文に登場する言葉の意味を理解する

#### ポイント① 「故事成語（こじせいご）」とは？

「故事成語」とは、歴史的な事実や古くからの例え話、エピソードなどの「故事」を背景に持つ言葉。

「故事」という言葉は、カンタンに言うと「昔あったこと」という意味だよ。つまり、「昔あったことをもとに作った言葉」ということだね。



## ポイント② 故事成語にはどんな言葉があるのか？

### 「矛盾（むじゅん）」とは

「矛盾」のもとになった出来事

楚（そ）という国の人が盾と矛（ほこ）を売っていた。

「うちの盾はすごく堅（かた）いので、これを突き通せるものはないよー。」

といいながら、今度は

「うちの矛も、これまたすごく鋭（するど）くて、どんなものだって突き通すぜ！」

と言った。

それを聞いた人が、「では、その矛でその盾を突いたらどうなるの」と尋（たず）ねたところ、売っていた人は答えることができなかった。

### 「矛盾」の意味

つじつまが合わないこと。

「絶対突き通されることはない盾」ということは、その矛（どんなものでも突き通すはずの矛）でも突き通せないことになっちゃうし、「どんなものでも突き通す矛」ということは、その盾（絶対突き通されることはないはずの盾）を突き通せるということになるから、言っていることは筋が通らないよね。

### 「推敲（すいこう）」とは

「推敲」のもとになった出来事

唐（とう）の時代に賈島（かとう）という詩人が、「僧は推（お）す月下の門」という詩を思いついたものの、「さてよ、”推す”ではなく”敲（たた）く”の方がいいかも？」とひたすら悩んでいるうちに、偉い役人の行列に突っ込んでしまって、捕まってしまった。

しかしそのことを説明すると、その役人も名文家（めいぶんか・優れた文章を書く人のこと）だったので一緒に考え「敲くの方が良いと思う」とアドバイスしてくれた。



## 「推敲」の意味

文章を書いたあとに、内容をもっと良くするために字句（じく・文字や語句）を練り直すこと。

## 「蛇足（だそく）」とは

### 「蛇足」のもとになった例え話

ある男たちが酒を取り合っていて、「では、一番早く蛇の絵を描いた人が酒を飲めることにしよう」と勝負をはじめた。

一番早く蛇の絵を描いた男は、「よし！俺が一番だ。俺なんか足を描き足しちゃうくらい余裕だぜ！」と足を描き足した。

すると次に描き終わった男が「蛇に足なんかないよ。つまり、それは蛇じゃないからノーカウント。俺の勝ちだ！」と酒を飲んでしまった。

## 「蛇足」の意味

せっかく上手く行っているときに、調子にのって余計なことをすると全てが台無し（だいな）になるよ、という教訓。

## 「四面楚歌（しめんそか）」とは

### 「四面楚歌」のもとになった出来事

中国の楚（そ）と漢（かん）が戦争をしていたとき、楚の項羽（こうう）は漢の兵士に囲まれてしまった。

夜更（よふ）けに、取り囲んでいた漢の兵士たちが楚の歌を歌い始めると、項羽は歌っているのが楚の兵士だと思い込んで、「楚の兵士はみな捕まって漢に寝返ったんだ！もう味方はいないんだ！」と思い込んだ。



## 「四面楚歌」の意味

味方がいなくなり、周りがすべて敵になる状態。

他の故事成語もチェックしておこう！

※「今に生きる言葉」では紹介されていないけれど、資料集やワークに載っている故事成語がテストにでる可能性もあるよ。少なくとも意味は覚えておこう！

- ・背水（はいすい）の陣（じん）  
逃げ場のない状況の中、決死（けっし）の覚悟で物事にあたること
- ・臥薪嘗胆（がしんしょうたん）  
目的を達成するために、苦しい思いをしても自分を鍛（きた）えること
- ・呉越同舟（ごえつどうしゅう）  
仲の悪い者同士がひとつの場所にいること  
敵同士だけれど、お互いの利益と損害が一致する場合に協力すること
- ・漁夫（ぎょふ）の利（り）  
二者が争っているスキをついて、全然関係のない第三者が利益を得ること
- ・完璧（かんぺき）  
ダメなところが全くなく、完全なこと
- ・五十歩百歩（ごじゅっぽひゃっぽ）  
どちらも同レベルで、たいしたことがないこと
- ・圧巻  
全体の中で一番優れている部分のこと  
他を圧倒するくらいの出来栄（できば）えのこと
- ・杞憂（きゆう）  
いらぬ心配のこと
- ・螢雪（けいせつ）の功（こう）  
苦勞をして学業に励んだ成果のこと



- ・塞翁（さいおう）が馬（うま）  
どんなことから不幸になるか、幸せになるか、人生の幸不幸は予測できないよ、  
ということ
- ・杜撰（ずさん）  
いいかげんなこと  
文章に間違いが多いこと
- ・他山（たざん）の石  
他人が間違えたことも、自分を磨くためには役に立つということ
- ・石に漱（くちすす）ぎ流れに枕（まくら）す  
負け惜しみが強いこと
- ・一炊（いっすい）の夢（ゆめ）  
人生や人の世の栄華は儚（はかな）いということ
- ・画竜点睛（がりょうてんせい）  
最後の大切な仕上げのこと
- ・切磋琢磨（せつさたくま）  
お互いに競い合って磨き合うこと
- ・大器晩成（たいきばんせい）  
大物になる人は、段々とすぐれた人になるということ
- ・朝三暮四（ちょうさんぼし）  
うまい言葉で人をだますこと
- ・虎（とら）の威（い）を借る狐（きつね）  
強いものの力を後ろ盾にして威張ること
- ・覆水盆（ふくすいぼん）に返（かえ）らず  
一度してしまったことは、もう元にはもどせないということ



### ポイント③ 矛盾の故事（書き下し文）の言い回しの意味

矛盾（書き下し文）

楚人（そひと）に盾と矛（ほこ）とを鬻（ひさ）ぐ者あり。

これをほめていは（ワ）く、「わが盾の堅きこと、よく陷（とほ）（トオ）すものなきなり。」と。

またその矛をほめていは（ワ）く、「わが矛の利（り）なること、物において陷（とほ）（トオ）さざるなきなり。」と。

ある人いは（ワ）く、「子（し）の矛をもつ（モツ）て、子の盾を陷（とほ）（トオ）さばいかん。」と。

その人応（ウ）ふることあは（ワ）ざるなり。

### 漢文の独特な言い回しの意味をチェック

※「矛盾」の文中で使われている意味で紹介しているよ。

【鬻（ひさ）ぐ】・・・売る

【いはく】・・・言う

【陷（とお）す】・・・突き通す

【利（り）なること】・・・鋭いこと

【子（し）】・・・あなた

【いかん】・・・どうなるのか

【あはざるなり】・・・できなかった

### ポイント④ 漢文の読み方のルール

漢文というのは、中国の文章のこと。

そのままだと、日本人が読むのは難しいよね。

だけどこの漢文に色々工夫すると、日本語で読むことができるんだ。

そうやって漢文を日本語で読むことを「訓読（くんどく）する」というよ。

工夫は3段階あって、工夫すればするほど日本語として読みやすくなるよ。



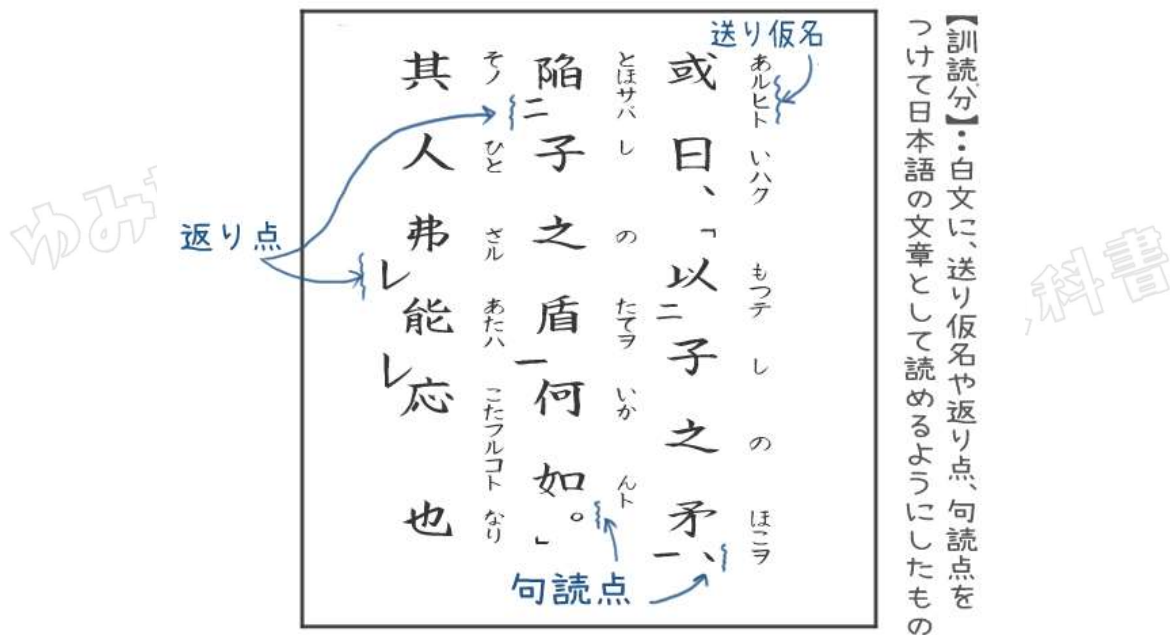
① 白文（はくぶん）（工夫ステージ0）

漢字だけで書かれた原文（げんぶん・もとの文そのままのこと）



② 訓読（くんどく）文（工夫ステージ1）

白文に、訓点（くんでん）をつけたもの。



訓点（くんでん）とは？

- 【送り仮名】 漢字の右下にカタカナで小さく添えたもの
- 【句読点】 「。」や「、」、「」（カギかっこ）などの符号
- 【返り点】 訓読のときの順番を表す符号で、漢字の左下に添えるもの。  
レ点や、一・二点など

③ 書き下し文（エフステージ2）

漢字や仮名が交じった日本語の並び方の文に直したもの。



ポイント⑤ 本文に登場する言葉の意味

【座右（ざゆう）の銘（めい）】

常に心に留とどめて、自分をいましめたり、励はげましたりする言葉のこと

【エピソード】

ある出来事の特徴や、どんな人かを伝えるために使う話のこと





## 「今に生きる言葉」まとめ

### 「今に生きる言葉」まとめ

- 歴史的な事実や、古くからの例え話やエピソードなどの故事を背景に持つ言葉を「故事成語」という。
- 教科書などで紹介されている故事成語の意味を答えられるようにしましょう!
- 「矛盾」の故事の書き下し文に使われている言葉の意味を答えられるようにしましょう!
- 「白文」とは、漢字だけで書かれた原文のこと。
- 「訓読文」とは、白文に訓点をつけて、日本語の文章として読めるようにしたもの。
- 「書き下し文」とは、漢字仮名交じり文に直したもの。
- 送り仮名・句読点・返り点などを訓点と呼ぶ。

